

日 時：平成26年11月24日（月）9：30～11：30

場 所：地下鉄 桜山駅 周辺、みや道地蔵前

## 【昭和区の歴史文化を守る会について】

地域のお地蔵さんの道標が半分土に埋まっているのを地元の有志で保全し、拓本を取るなど、様々なことを調べたことがきっかけで、平成25年6月に発足し、郷土の歴史を学び、誇りと愛着を持つことが地域のまちづくりの第一歩であるとの思いから活動をしています。また、車椅子でも参加できる歴史散策ウォーキングなども開催しています。

昨年度はまちづくり活動助成を受けて、時代とともに姿を消した「地蔵盆祭り」を60年ぶりに復活させ、子どもたちにお地蔵さんの存在を知ってもらうことによって地域で大切に守り続けるきっかけづくりからはじめました。

今年度も引き続き地蔵盆祭りを開催し、併せて古くからある街道「みや道」の周知をはかるため、道沿いに道標を設置するなど、地域の歴史と文化を次世代に繋ぐ取組みに力を入れています。

## 【活動の様子】

秋も深まりつつある11月24日（月）「昭和区の歴史文化を守る会」の歴史勉強会とみや道地蔵前の石碑落成式に行ってきました。

### ■ 歴史勉強会

12月14日（日）に行われる「歴史散策ウォーキング」のコース上にある各史跡等につつまの歴史の勉強会です。26名が参加していました。



勉強会に集まった参加者のみなさん



ウォーキング当日の説明の様子

まずは、この地域の善昌寺にある石仏という地名の由来ともいわれる石仏地蔵尊の伝承について、会員自作の紙芝居「古観音」で、別の会員が昔ながらの名古屋弁で上演されました。また、紙芝居で使われる名古屋弁の解説もあり、石仏地蔵尊の伝承と名古屋弁のことが、とてもわかりやすく学べました。



この石仏地蔵尊のある善昌寺は、「歴史散策ウォーキング」のコースにも含まれています。

紙芝居は子どもにもわかりやすい内容で作られており、身振り手振りを巧みにまじえた鮮やかな語り口に参加者も楽しんで見ていました。今回の参加者に子どもはいなかったのですが、今後は子どもたちにも見てもらえるとよいなと感じました。

次は、いよいよ本題の代表による地域の歴史についての解説がありました。

「歴史散策ウォーキング」のコースである街道や、埋められたお地蔵さんにまつわる不思議な話、宗教弾圧があったころの隠れ切支丹（きりしたん）の話などがスライドを使い、盛りだくさんな内容で解説されました。

参加者も地域の知られざる歴史の符合に真剣に耳を傾け、メモを取る姿が印象的でした。



地図や文献を使って、地域の史跡にまつわる歴史をわかりやすく解説

## ■ 石碑落成式

歴史勉強会の後は、「みや地蔵」前に移動し石碑の落成式を行いました。

地蔵堂の脇の古い石碑は、以前は半分土に埋まっていたもので、これを地域の皆で力を合わせて掘り出したことが、この会をはじめのきっかけにもなったものです。

この地蔵堂の西側に、街道「みや道」の石碑が建てられました。



掘り出された石碑

代表と関係者の挨拶のあと、約30名の参加者全員が順番に少しずつ幕を取りはずしました。



笑顔の除幕式…  
皆で少しずつ幕をはずしました



みや道  
この道は  
熱田神宮参詣の道です  
瀬戸、尾張旭、猪子石  
方面から、川名、ここ桜山  
牛巻を経て熱田神宮に  
至る古くからの道です  
平成二十六年十一月二十四日  
昭和区の歴史文化を守る会





最後に参加者一同で石碑を囲んで記念写真を撮り、完成を祝いました。  
この石碑も地域の史跡となり、歴史を伝え長く愛されていくことを期待しています。



～ にやにやの感想 ～

石碑の完成を祝うような小春日和の日でした。

そこに住む人々も、あまり知らなかったであろう地域の歴史を掘りおこし、考察を加えていくという作業は大変でもあり、一方でとても有意義で楽しい発見があるということが伝わるような勉強会でした。事前にその地域の史跡にまつわる話を聴くことで、そこにまつわる歴史や当時の人々の思いが身近に感じられ、このあとに開催されるウォーキングもより楽しさをますような気持ちになりました。少人数の興味や楽しみから始めたことが多くの共感を呼び、拡がり、まちづくりに活かされているという印象をもちました。これからも、楽しみながらまちの歴史を伝えていく取り組みが続くことを願っています。



PECoの感想

今回は、歴史散策ウォーキングための事前の勉強会と石碑の落成式に伺いました。

事前勉強会では、参加したメンバーは地域の歴史の知識を深めるため、代表による講習に真剣に耳を傾ける様子が印象的でした。一転、落成式は、参加者全員での除幕や記念撮影など、終始、和やかなムードで進められていました。

今回は、活動の一部を視察させていただきましたが、これはメンバーの日々の活動のたまもので、このような活動や成果が次世代に受け継がれていくことを望みます。